

### 【TOPICS】

- 1P：◇老子「上善の言葉」 ◇お仕事備忘録 ◇3月4月の勉強会のお知らせ
- 2P-3P：◇人の輪数珠つなぎ ～株式会社コンサス 土井靖士社長インタビュー～
- 4P：◇未来へ続く道 ◇経営学のさわりのさわり
- 5P：◇はなむけの会を開きました
- 6-9P：◇インターンシップ生が卒業しました
- 10P：◇長田会計事務所の〇〇なコト ◇豊の部屋 ◇今月のおやつ ◇編集後記

【発行者】  
長田会計事務所  
大阪市中央区徳井町2-2-9-701  
TEL 06-6944-2111  
FAX 06-6944-2110  
Mail nagata@office-smile.jp  
HP <http://office-smile.jp/>

【編集部】  
編集長 大江 未咲  
部長 遠藤 悦代  
岡 拓海  
発行責任者 長田 雅子

### 老子「上善の言葉」

たいほう ぐう      たいき ばんせい  
大方は隅無し、大器は晩成す。



大きな方形には四隅がなく、大きな器は出来上がるのに時間がかかる。

宮下真著「心の疲れがすうっと消える 老子 上善の言葉」より引用

大きな四角は四隅が無いように見えるし、大きな器は出来上がるのに時間がかかるという意味です。かたちを知るためには、自分を動かし創造し続けることが必要だということではないでしょうか。企業であれば、目の前のことだけを追うのではなく、志を変えず時代に合わせて進化し続け、100年先のかたちを考えて経営していくことが必要なのだと思います。



#### 【訂正とお詫び】

2018年2月号 Vol.141（先月号）に掲載した老子の言葉の文字が間違っておりました。正しくは「下士は道を聞いては、大いにこれを笑う。笑われざれば、以て道と成すに足らず。」です。（誤：開いては）訂正してお詫び申し上げます。

今月は、個人の確定申告期限であると同時に、3月決算の会社にとっては、年度最終時期です。もれのないよう処理をしましょう。

#### 2018年3月 お仕事備忘録

1. 国外財産調書の提出
2. 財産債務調書の提出
3. 確定申告の税額の延納の届出書
4. 個人の青色申告の承認申請
5. 所得税の更正の請求
6. 無期限転換ルールのスタート

#### 3月・4月の勉強会のお知らせ

- 法人税のしくみ①  
日程：3月22日（木）10：00～12：00  
場所：長田会計事務所セミナールーム  
受講料：2,000円／お1人様
- 法人税のしくみ②  
日程：4月4日（水）10：00～12：00  
場所：長田会計事務所セミナールーム  
受講料：2,000円／お1人様
- 会社法をABD（Active Book Dialog）で学ぶ  
日程：4月13日（金）10：00～12：00  
場所：長田会計事務所セミナールーム  
受講料：2,000円／お1人様

受講を希望される方は、お知らせください！



弊所とお付き合いのある、元気な人をご紹介しますコーナー。

2018年の第1回目は、株式会社コンサスの代表取締役 土井靖士社長をご紹介します！

株式会社コンサスは主にステンレス製のバルブや付属品の製造をされている会社です。

長田会計事務所では昨年、台湾工場を見学させていただき、その様子を2月号の通信でご紹介させていただきました。そんな株式会社コンサスの、とってもパワフルな土井社長のインタビューです。

## 思い切って寿退社し、父と働くことを決断

長田所長（以下 長）土井さんのプロフィールを教えてください。

土井社長（以下 土）大学を卒業してP&Gへ就職しました。3年間外資系のメーカーで働いたことが僕の中で一番勉強になったし、すごく良かったと思います。

就職して3年目のときに、父が独立して立ち上げた会社がバブルで忙しくなって、週末になったら「お父さんしんどいから手伝ったって」と母から連絡がくるようになったんです。僕はP&Gでいい感じで働いてたんで辞めるのが嫌やったんですけど、ちょうどそのとき結婚しようって思ってたのと、東京への転勤の話があったのと、3つが同時に重なったんで、思い切って寿退社して父と働くことを決断しました。

そこで、まずは取引先の会社に預かってもらって、2年間貿易の仕事をしました。後半の1年間は中国の廈門（アモイ）というところで、駐在員として単身赴任しました。ゼロやった売上を「注文取ってきたら帰してやる」って言われてめちゃくちゃ頑張りました。日本の農業機械の注文を初めてもらってやっと帰ってきて、コンサスに入社しました。だからわりといろいろ経験しています。



長 会社の概要や仕事の内容を教えてください。

土 大阪と東京と台湾に事業所のあるバルブメーカーで、特にステンレス製のものに特化しています。日本のバルブを台湾とか中国に輸出する輸出商社からスタートしたんですけど、景気が悪くなってきたらやっぱり売れなくなってくるんですよ。最終的に値段が厳しくて競争になったときに、メーカーさんが「やめましょう」となると、商社がいくら頑張っても注文が取れないんです。「最終的に注文が取れるかどうかはメーカー次第なんや」とわかって、「メーカーになろう」と思ったんです。今では売上の9割くらいが自社製品のバルブのメーカーになりました。

うちは錆びにくいステンレスに特化しているんで、高級な液体が流れるところに使われます。よく「何でステンレスなん」って聞かれるんですけど、僕が持つてるネットワークと父の知り合いの業者さんがたまたまステンレスを扱う人が多かったんで、自然とステンレスに特化しました。だから今のコンサスは、色んなお客さんがあった中で頼っていった人たちが形になったもんなんです。やっぱり人とのご縁が形になったのかなと思います。

長 業界的には活気のある業界なのですか？

土 手堅い業界です。バルブ配管の人って言うのはめっちゃまじめで、バルブ・配管以外のことってあんまり手を出さないんです。ところが会社の業績を見てみると、売上はそんなに大きくないけどきっちり利益出してる会社ばかり。家の水道の蛇口を増やしたい人があまりいないように、安いからって2個買う商品でもないし、めっちゃめっちゃ儲かるところではない。反面、新規参入が少なくて、非常に手堅い業界だと思います。

でも、うちみたいな後発企業は業界の中ではすごく珍しいんです。後発の強みって言うのは商流が決まってないこと。例えば古いバルブメーカーっていうのは、商社を通じて商売してたんです。そしたらユーザーさんが直接見積もりもらって引き合いしようと思っても、商社の顔を立てないかんって言うのがあるんです。それがうちは後発企業やから、どこにも気を遣うこともなく見積もりできた。それが、インターネットの時代にうまくはまって売上を伸ばしていったのかなと思います。

長 入社されて25年、社長になられて8年ですが、普段どんな思いで経営されていますか。

土 社員の大切なものを大切にできるような会社にしたっていうのが僕の想いです。例えば、時間だとか、趣味だとか、恋愛だとか大切なものがそれぞれ皆にある。そのためにきっちり休みがあって、収入があって、安心して全力投球できるところじゃないと、自分の大切なものを大切にできないと思う。



モニターに「ご来社ありがとうございます。長田会計事務所様」と書かれてありました。嬉しくて1枚パシャリ。





だから社員にはあえて厳しく、「休むときは休んでください。ただし仕事上アクセルを踏まなあかんときはきっちりアクセルを踏んでください。」と言ってます。そういう考え方ができる人の集まりやったら絶対に会社は利益出るし、信頼も勝ち取れる。それで、気がついたらちゃんと休めてると思うんです。例えば、休み前に急に注文が入るようなことって1年に1回あるかないかで、その時にアクセル踏めるかどうか信頼に繋がってきます。



本社に展示されている自社製品。

インターンシップ生岡 アクセルを踏むときはきっちり踏む、休むときは休むって言う考え方は以前勤めていたP&Gからきているんですか。  
土 ほんまにそう。仕事をする上で一番大事なことで「抑えないかんポイントをきっちり抑えること」で、外国人のエリートはすごい。夕方5時くらいには仕事を終わってたんやけど、彼らは朝の5時から仕事してるんです。何でかって言うと、朝5時に出たら時差の関係でアメリカの本社と連絡できるから。それで帰って夜の10時とか11時にアメリカの本社に電話してるんですよね。だから家でも仕事するんです。エリートは仕事をするときにする。アクセル踏むときに踏む。

### “縁”を大事に

長 以前、会社見学させていただいたときに“ご縁”をすごく大切にしていらっしゃるのが印象的でした。

土 僕が親父の会社に入ったときは1年目から赤字で会社潰れるんちゃうかなって思ったんですよ。当時円高不況でね。そんなときに、大学の同級生と飲みに行ったんです。まだ入社3、4年目だったと思うんですけど、みんな大手に勤めてて、僕だけ親父と3人で会社やってました。その時、「中小企業にはお前らとは違うしんどさがあるで」と言うたんですけど、仲のいい友達に「土井ちゃん何言うてんねん。土井ちゃんのとこ中小企業じゃなくて零細企業やん」と言われたんです。笑い話だったんですけど、そのときうちは零細企業やってめっちゃ納得したんです。

また銀行に勤めてる大学の同級生と飲みに行ったとき、「土井ちゃんのとこ去年赤字やったんやろ、赤字が3年続いたら会社って倒産するねんで」と言われたんです。当時はそれが都市伝説やったんです。そのときもめっちゃ納得して、2年目も赤字になりかけてたから、来年赤字やったら会社潰れるんやって思いました。「俺はなんて選択ミスをしたんや」って思った反面、ケツに火がついたんです。「絶対赤字にできん」と思って、P&Gの同期に頼みにいきました。僕は退職日まで有給休暇1日も使わずに営業回ってたんで、辞めるときも「あいつは最後までケツ割らん」と、皆、すごい信頼してくれてました。それもあって、当時スーパーとかでやっていた店頭販売の仕事を回してくれたんです。風船配ったり、くじ引き配ったりする仕事です。景品と店頭で派遣する人を自分で探して手配しました。平日はずっとバルブ売って、土日は派遣したところを順番に見て回ってたんです。その売上は全部会社に戻して、原価の支払いも会社でやってたら、その年は赤字になりませんでした。そんなのも“縁”があったからやと思ってます。

“縁”を大事にしていくときに、僕は最後のおしりをちゃんとするのがすごく大事だと思うんですよ。例えば誰かにお世話になったときも、最後にいい加減なことをすると悪いイメージしか残らへん。だから“縁”をうまくつなぐためには最後の最後まできっちりするって言うことがすごく大事やと思う。



昨年見学させていただいた台湾工場。

長 これからの会社の将来像はどう考えていますか。

土 強い会社にするっていうのが僕の目標です。強いて言うのはどんな環境下でもきちんと利益出して、みんなが安心して働けるということです。そのためには自己資本を貯めないかん意識があります。明確な数値目標として、全従業員の3年分の年収を純資産にしようと思っています。それが僕の目指している強い会社の目で見えるものさしです。だいたい2年分近くになってきたから、あともうちょっとがんばったらいけるかな。



株式会社コンサス

(本社・本社工場) 〒559-0024 大阪市住之江区新北島7-1-82

TEL : 06-6681-5034 (代) FAX : 06-6681-5099

HP : <http://www.consuss.co.jp/index.php>





## 「経営理念の作成とブラッシュアップ」

今から12年前、勤務していた事務所を辞め、長田会計事務所に戻りました。その当時は「何のために事務所を経営しているか」など考えたこともなく、ただ目の前の業務に携わっているだけでした。

9年前に入会した経営者団体の「経営指針書」を作成するセミナーに参加しました。経営理念を作成し、その理念に向かって方針・計画を立てました。経営理念とは企業の目的で、企業のあるべき姿とは何かを示したものです。「事務所はお客様に何を提供しているか?」「スタッフと一緒にどのような事務所にしたいか」「どのように社会とかかわっていききたいか?」など、1泊2日で胸の中にある想いを文章化しました。といっても想いを文章化することは大変難しく、祖父がどのような想いで仕事をしていたかなどを考えながら、言葉を紡ぎました。最初の経営理念は一人で考え、自分の想いを言葉にしました。

その後、その理念を唱和したり、月初めのミーティングで理念に沿った行動をしたことを発表したりしていましたが、なかなか所内に浸透しませんでした。そこで何度か理念をスタッフと作り直し、昨年秋に4回目の理念改定を行いました。「いい仕事とは?」「いい職場とは?」「この2つが実行された社会はどうなるのか?」という視点で全員で意見や想いを出し合い、共通言語を見つけていきました。言葉を共有することで、想いを共有し、以前作った理念をブラッシュアップすることができました。



今回は初めて理念だけでなく、行動基準も策定しました。行動基準は理念の基に想いを一つにし行動するためのものさしです。

“理念で飯が食えるか”とおっしゃる方は多いですが、確かに理念を作るだけでは経営はできません。しかし、理念を作り、その理念に向かって方針・計画を立てることで全社一丸体制での経営ができ、結果が出ると実感しています。



## 「経営とは何をやっているの?～経営システム」

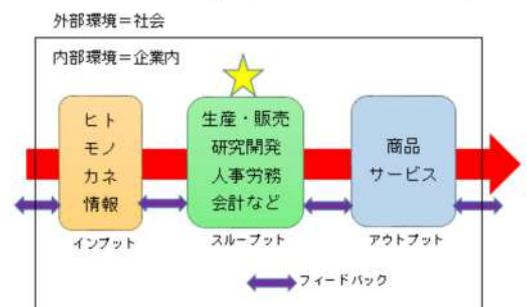
前回、企業活動そのものは経営学ではないが、その活動から企業経営がよりよくなるためのツールや理論を開発し、広く使えるようにするのが経営学で、経営は「ヒト・モノ・カネ・情報」の経営資源や環境が相互に作用しあっていると述べました。

今回は「経営システム」の話をしたと思います。

「システム」とは以下の3つを満たすものです。①2つ以上のものの集合体であること、②それぞれが関連していること、③共通の目的をもち、その目的のために動いていること。経営にシステムの考え方をあてはめたものが『経営システム』です。

企業は社会（外部環境）から経営資源を「インプット」し、それを企業（内部環境）で「スループット（変換）」した上で、再び商品やサービスを社会（外部環境）に「アウトプット」しています。そして社会と企業、企業内で相互に「フィードバック」し合っています。すなわち経営システムは「社会と企業のつながり」と「企業の活動」を図式化したものということです。

経営学はこの「企業の活動」を「経営システム」として一般化して把握し、アプローチします。特に☆のスループットのシステムは、インプットとアウトプットをコントロールするため「経営管理システム」と言われ、ここが経営学のメインの研究対象となります。



この連載では「経営管理システム」のうち、人や会計に関することを中心にいくつかご紹介していきます。次回は「企業ってそもそもどんなもの?」です。





## はなむけの会を開きました



2018年2月、インターンシップ1期生である野間口慶くん、小倉優花さん、玉川晃基くん、福本夏子さんを送る「はなむけの会」を開きました。残念ながら小倉さんはインフルエンザのため来られず、皆揃ってとはなりませんでしたが。

最後の食事会なので皆で何を食べようか迷ったのですが、事務所の近くにある「ホテルサンホワイト桃園」の中華料理を選びました。ホテルサンホワイトの藤井社長が所長の知人であり、当日もお気遣いいただきました。ありがとうございました。



当日は昨年の卒業生、同じく1期生の石原采佳さんも駆けつけ、2つの円卓を囲みながら、思い出話やこれからのこと、近況など、楽しいおしゃべりができました。途中には席替えタイムを設けて皆が卒業生と話せるようにしたのですが、2年間のできごとを話すには2時間半は短く、あっという間に終わってしまいました。でも、それぞれが心おきなく楽しむことができたのではないかと思います。



終盤の所長・スタッフ・3回生インターンシップ生から卒業生へ贈ることばに、お父さんは涙を浮かべており、私ももらい泣きしそうになりました。

卒業生からの最後のことばで、3人とも「インターンを通じて成長できました」と言ってくれました。私はその言葉が何よりもうれしくて、そんな彼らの成長をこれから見られなくなると寂しい気持ちでいっぱいです。卒業生の4人は、私が長田会計事務所に入った時にもうすでにインターンシップ生として働いていました。そのため卒業生のみんながいない事務所が想像できません。これから少しずつ実感がわいてくるのかなあとと思います。

この2年でたくさんのことを学んで、たくさん成長してくれました。はじめて出会った時より、顔立ちも少し大人びた気がします。ひと月後には、それぞれ新しい一歩を踏み出します。仕事の中にやりがいや楽しさを見つけて、自分らしい人生を歩んでください。



野間口くん、小倉さん、玉川くん、福本さん、ご卒業おめでとうございます。



はなむけの会の前には広報部がプレゼントを作成！

当日、卒業生の福本さんが事務所にいたので、ばれないようにプレゼントを作るのはドキドキでした。無事完成してよかったです。3回生のインターンシップ生の岡くんは色紙を入れる筒につけるリボンに苦戦しながらも、かわいく仕上げてくださいました。





## インターンシップ生が卒業しました 1



2016年に私たちは「インターンシップ生を迎えよう」と決めました。スタッフに時間がなく、領収証整理や簡単な会計処理などをお願いしたい、というのが現実でした。しかし、パートやアルバイトではなく「インターンシップ生」として大学生を迎えるのであれば、教育の一翼を担うこと、会計業界のためになることを意識しようと話し合い、私たちのインターンシップのテーマとして次のことを決めました。

「働くことの楽しさを伝えること」「会計のおもしろさを伝えること」の2つです。

2月末を以て、4名のインターンシップ生が長田会計事務所でのインターンシップを終え卒業し、社会人として歩き出します。昨年卒業した石原采佳さんも加えて5名が、当事務所のインターンシップ1期生です。私たちも試行錯誤で進んでいった毎日の中で、インターンシップ生活を楽しんで、いろいろな知識と経験を積み重ねてくれた彼ら。私たちにたくさんのものを与えてくれました。2つのテーマが伝わっていれば幸いです。

インターンシップ生たちは「長田会計事務所通信」や事務所のFacebookにたくさんの記事を書いてくれました。彼らの目線で、世代の感覚で書いてくれる記事はいつも読んで楽しいものでした。いろいろなことのある1年半から2年弱の「長田会計事務所でのこと」を、卒業生たちが最後の記事にしてくれました。

私は、インターンシップを通して月次や年末調整といった基本的な知識や、広報に関する記事の書き方など多くのことを経験し学ぶことができました。

なかでも、日々の業務で行う「報連相」は身につけているなど実感する場面があります。会計や税務は、まだまだ知らないことが多く、業務を進めていく上で疑問点が見つかります。その際に、どこがどのように分からないのかを明確に質問すること、また、業務の引き継ぎをする際に、どこまで完了していて次はどこから始めればよいか、伝言を残すことが当たり前になっていきました。

私は、事務所以外でアパレルのアルバイトをしていました。店頭の接客で分からないことがあったとき、業務の交代があったとき、この当たり前を何気なくやっていると、店長から褒められたことがあり、事務所での経験が活かされているなど実感しました。

また、インターンシップを通して印象に残ったことは「六甲山登山」です。私自身初めての登山でしたが、顧問先の方々と一緒に登り、温泉や食事もさせていただき、とても楽しく関係が深まったイベントでした。その後も、お会いする機会があった際は、お声をかけていただきとても嬉しかったです。

卒業後は、地元鹿児島県の銀行に勤めます。六甲山登山や、同友会などで出会った経営者の方々は、人生経験が豊富で、話が面白く、毎回勉強になっています。社会人になると、経営者の方と関わる機会がより増えるので、わくわくしています。

長田会計事務所のインターンシップでは、普段の業務や勉強会を含め、アルバイト等ではできない経験をすることで、自身の成長にも繋げることができたため、本当にやってよかったです。ありがとうございました。

野間口 慶





## インターンシップ生が卒業しました 2



私が、長田会計事務所で働いて学んだことは、働きながらも勉強する姿勢やお客さんとのかわり方です。例えば、会計業務である仕訳や給与の入力作業等も、初めは全く分からず苦勞しましたが、長田さんをはじめ遠藤さんや事務所のスタッフの方々に教えてもらう中で、理解が深まりました。

また、事務所で定期的に行われる事務所の勉強会、顧問先を交えてのセミナー等、働きながらも、常に新しいことを勉強し続けるという事務所の環境は、私も学ぶ姿勢を常に忘れないでいようと思うきっかけとなりました。

今後、働いてただ淡々と業務をこなすというだけでなく、自分自身でもっと良い方法や自分なりのやり方を勉強し続けたいと思います。

楽しかったことは、六甲山の登山や、忘年会、送別会等です。特に送別会は、事前にインターン生で力を合わせて準備をしたり、サプライズを考えたり楽しかった記憶があります。

卒業後は事務の仕事に就きます。契約締結の書類を作る等、技術以外のサポートをする予定です。

小倉 優花





## インターンシップ生が卒業しました 3



私は飲食やゴルフ場のキャディのアルバイトをしているのですが、それらのアルバイトに活かせるようなことや他では学べないことを長田会計事務所で学ぶことができました。

まず、伝え方です。長田所長とスタッフの小向さんと一緒に高校生に対する仕事説明会へ行きました。そこで説明しているときに“経費”という言葉が分からない高校生がいました。「自分たちが当たり前と思っていることは、知らない人にとっては当たり前ではなく、ただの“単語”ですね」という長田所長のことばに納得しました。私はおそらく営業の仕事をするのですが、商品説明をするときの用語の使い方などに気を遣い、相手が分かりやすくイメージできるような説明をします。

つぎに、発表の仕方です。インターンシップ生3人で報告会をしました。私たち3人はあえてお互いの発表内容を共有せず発表しました。発表とはリハーサルをしっかりと内容を完璧に伝えるものだと思っていましたが、流れだけを確認して本番のノリで発表するやり方もアリだと感じました。時と場合によりますが…。もし次のインターン生の発表があるなら参考にしてほしいです。発表前までは不安でいっぱいでしたが、発表会はスタッフの皆さんに楽しかったと言ってもらえることができ、発表している私たちも楽しく発表でき、とても印象に残っています。

最後に、交流の大切さです。懇親会や色々な場所への見学、勉強会で意見を出し合って課題を一緒に解決する取り組みなど、多くの機会がありました。仕事上の姿だけでなく他の姿を見ることでイメージとは違う一面を知ることができ、「こんなに面白い人なんだ」と気づけました。それが一緒に働いていて楽しいということに繋がると思いました。

他にもたくさんありますが書ききれません…。私にとって会計事務所というのはとても堅いイメージでしたが、長田会計事務所で働きそのイメージが覆されました。長田所長はパワフルで事務所の雰囲気も明るくとても働きやすかったです。

今までの経験を十分に活かして社会人として働いていきます。2年間ありがとうございました。

玉川 晃基





## インターンシップ生が卒業しました 4



長田会計事務所です。実際に働いて、簿記の検定試験で学んだ知識だけでなく、会社の業種によってそれぞれの会計の形や処理方法が違うという事を、実務を通して学ばせていただきました。今までたくさんの顧問先の月次等に携わりましたが、会計と言っても本当に様々で、一度やったことがあっても思い出すのに時間がかかることもあり、知りたかった会計に触れることはできても、まだまだ奥が深いなと思います。

そしてさらに、会計以外にも働く事の基本を知ることができた事も大きな収穫でした。来客時のお茶出しや電話対応という応接や、なにかあれば報告・連絡をする事、という働く上で当たり前といえるような事が私にとっては新鮮で、これが働く姿なんだと気づかされ、それは今後の自分の働く姿勢として大切な事だと感じています。

この事務所はとても朗らかで、笑顔があふれています。そのように過ごしていらっしゃるスタッフの方々とよく楽しくお話をし、緊張しいの私をいつも温かく迎えてくださったことが私にとって一番嬉しかったことです。楽しかったことはたくさんのイベントに参加させていただいたことなどたくさんありますが、昼休み等でおしゃべりをして、面白い話で笑い疲れたりした楽しい日常の事こそ、私はとても印象に残っています。

私は通信建設業界の会社に事務系総合職として就職します。配属先はまだ分かりませんが、どんな配属先であろうと、こうしてインターンシップさせていただいた中で働く本来の姿を見、経験した事を決して忘れることなく、私はこの事務所のスタッフの方々のように明るく楽しく、時にしっかりと、メリハリをもって働きたいと心から思います。約一年半の間、大変お世話になり、ありがとうございました。

福本 夏子



### 卒業生の皆さんへ

皆さん、卒業おめでとうございます！！

長田会計事務所を若いパワーで活性化していただき、本当にありがとうございました。

皆さんには、2016年3月にインターンシップ制度を利用した長期アルバイトとして勤務を始めていただきました。迎える私たちは、実は手さぐりで皆さんに業務を依頼したり、勉強会や交流会を開催したりしてしていました。私たちは考えることが次第に楽しくなって、皆さんとの関わりを通じて伝えることの大切さ、また「成長」を感じることができる嬉しさを体験することができました。

当事務所で経験したことを一つでも、これからの人生で活かしていただければ幸いです。そして、自身の夢の一つひとつ実現して、自分らしい人生を歩んでください。

お菓子タイムを思い出したら長田会計事務所に遊びに来てくださいね。

2018年2月

長田会計事務所所長  
税理士 長田 雅子



## 福本 夏子

(インターンシップ生)



「みんな10月生まれ！」

私がこの事務所で驚いたことは、所長・スタッフの皆さん全員が10月生まれであるということです。もちろん、本当にたまたまで、皆さんもそれを知ったときは驚いてらっしゃったようですが、私もこの事実を聞いて、純粋にすごい！と思いました。

誇張しすぎかもしれませんが、それでも縁が確かにあって皆さんを引き寄せている可能性はないとは言えない！と密かに高ぶりながら考えていました。

## 野間口 慶

(インターンシップ生)



「スタッフみんなよくしゃべる！」

スタッフみなさん「お喋り好き」なことです。女性の多い環境に慣れていなかった自分にとっては、これが驚きでした。

女性4名ということもあり、一人が口を開くと次々に広まります。私自身、パソコンに向かって入力をしているとき、スタッフ同士の面白い会話を聞いて、にやけてしまう事も度々です。特に、お昼休憩では、話の内容がコロコロ変わり、聞いている私の頭の中も大忙しです。

これが、長田会計事務所の明るい雰囲気の原因の一つなのかと思いません。

## 玉川 晃基

(インターンシップ生)



「お父さん！」

長田所長のお父さんについてです。天王寺の事務所では暗い部屋に籠り仕事をしていて、少し怖いイメージがありました。「もしもーし！！」の大きな声だけが聞こえてきて、それに驚いたのを覚えています。卒業間際の今でも油断していると驚いています。

谷町の事務所に移転してからはお父さんも同じ部屋で働くようになり、お話しする機会も増えました。

私は囲碁の「チョウ・ウー」という人に似ているらしく、「チョウ・ウー殿」と呼ばれるようになりました。いつも囲碁の話をしてくださるのですが、私は囲碁が全然分かりません。

お父さんは私のことを「チョウ・ウー殿」と呼びすぎて本当の名前を覚えていないことに一番驚きました。

## 長田会計事務所の ○○なコト

### 今月のお題：

「長田会計事務所で驚いたこと」

来月のお題は、

「我が家のルール」です。

番外編として、この春卒業のインターンシップ生が『事務所で驚いたこと』を書いてくれました。

打ち合わせたわけではないのですが、全員違う驚きを書いてくれました。どれもクスツと笑ってしまうことばかりです。

## 小倉 優花

(インターンシップ生)



「みんな明るい！」

長田会計事務所で驚いたことは、事務所の雰囲気やスタッフの明るさです。

働き始めるまで、会計事務所というと少し暗いイメージがありました。しかし、長田会計事務所では様々なイベントや勉強会等を通し、スタッフ同士の交流や意見交換が盛んで、とてもいい雰囲気の職場だと感じました。

## 豊の部屋



卒業生挨拶の時間、2人が見つめる視線のその先では…

お父さんが無心に杏仁豆腐を食べていました^^



## 今月のおやつ

「おみやげ」

卒業旅行のシーズンであるせいか様々な土地のおやつが集まりました。すべて美味しかったのですが、なぜかベトナムのクッキーの袋は真空パックのようでした。



## 編集後記

編集部遠藤です。

まだまだ寒いですが、暦の上では春です。春といえば出会いと別れの季節ということで、今号は別れの「卒業特集」となりました。

ほぼ毎日インターンシップ生が出勤しにぎやかに過ごしていたので、少し寂しさがありますが、全員大学を卒業し、就職してくれたことに安堵しました。寄せてくれた記事を読むと嬉しいけれど少し切ない気持ちになります。

